

二、ため池の築造

近代のため池 『讃岐のため池』(昭和五十年)に掲載の「水の歴史年表」をみると、明治以降昭和二十年までの間に、蛙子新池、三五郎池、豊稔池、門入池、長柄ダムなどのため池が築かれた。

ため池の増・修築工事にもなう費用分担、用水配分などの問題は利害を共同にする同じ水掛り区域内の問題であるが、あらたにため池を築造することになれば、上流の水没補償問題という難問に直面することとなる。

それに、新しくつくられるため池のかん漑区域が広く、その広いかん漑区域内に古い農業用水がいくつ含まれている場合は、新規農業水利権の順位づけといった実によっかいな問題も解決しなければならぬ。

「水の歴史年表」に記された右のため池もそれぞれ苦難の築造史をもっている。以下、豊稔池の築造史を紹介しよう。

大関耕地整理組合の設立 大正十三年十二月の県会において、「大野原耕地整理県管実施ノ推進ニ関スル建議案」が提案され、建議は満場一致で採択された。三豊郡の大野原地方は、建議の提案者である■川千代治議員が「大野原へハ娘ハ遣ルナ娘釣瓶ノ嫁ニスル」という俗謡まで被露して早急なため池築造を訴えたように、干ばつの常習地帯であった。事実、この建議がおこなわれた十三年の夏、大野原地方は干ばつに見舞われ、被害は四〇万円の■額にのぼった。

そもそも、ため池築造による耕地整理計画が立案されたのは明治四十年にさかのぼるが、そのうち、農業土木学の第一人者である東京帝国大学教授・上野英三郎博士による実地調査などの結果、計画は井関池と大谷池の両池の改築に改められた。井関池は雲辺寺山の山麓に水源を発する柞田川を堰止めてつくったため池で、大野原村と柞田村をかん漑する。柞田川の運ぶ土砂の排水口の継ぎ足し工事が明治三十九年におこなわれたことについては、『香川県史』⁵ 近代Ⅰの第四章第三節で述べた。大谷池は井関池の下流に位置し、独自の集水地域をもつが、柞田川と井関池からも導水している。主なかん漑区域は、萩原村と中姫村である。大谷池の拡張にあたり、拡張の敷地が陸軍の雲辺寺原演習場内にあつたため、善通寺の第十一師団との度重なる交渉を経て、ようやく工事実施の許可を得たという。

大正七年十二月、大野原耕地整理事業の推進母体となるべき耕地整理組合が設立された。受益面積は、大野原、中姫、萩原、柞田の四か村と豊浜町にまたがる六二七町歩で、大関耕地整理組合と名付けられた。

豊稔池の築造 明治四十年の計画立案以来、六〇回にも及ぶ協議会開催のちに設立された大関耕地整理組合であったが、大谷池用水と井関池用水の水利調整がもつてて計画案がまとまらず、ついに組合は三つの地区に分かれてそれぞれ独自に計画を進めることとなった。

「用排水改良補助要項」が制定された大正十三年、香川県は大干ばつに襲われ、県当局においてもため池修築計画が立てられた。この年、県会で大野原県管土地改良事業推進の建議があつたことはすでに述べた。ここに、大関耕地整理組合の関係区域のうち、干ばつの最も激しかった井関池水利区が新池の敷地を柞田川の水源地である五郷村の田野々の地

に求め、十五年から本格的に工事を開始した。戦後、豊稔池普通水利組合を改組してつくられた豊稔池土地改良区が所蔵する「大関耕地整理組合新池築造ニ関スル協定書」によれば、大関耕地整理組合は五郷村に対し二万五〇〇〇円の報償金を支払うほか、五郷村に「サンサイ」が設定された。讃岐地方にいうサンサイとは用水配分上の特権のことで、協定書に「田野々池溜水三尺ノ地点ニ分量石ヲ据付ケ夫レ以下ノ水ハ式百拾日迄古田以下専ラ五郷村ノ田地ニ灌漑セシムルコト」とあるように、新池の残水一定量の優先的利用権が五郷村に与えられた。なお、池敷となって水没する田畑や山林の買収額、家屋や墓地の移転料などの決定は三豊郡長に一任された。

昭和五年三月二十五日、新しいため池は完成し、豊稔池と命名された。豊稔池の堰堤はマルチプルーアーチダムと呼ばれ、当時最高の土木技術を駆使してつくられた美しい石積みの堰堤であった。その堰堤の肩口のところに建つ豊稔池碑には、計画立案以来二五年にしてようやく豊かな水を手にした農民の喜びと感動が、「……爾来（豊稔池築造）六二七町歩ノ耕地灌漑水富ニシテ、タダニ昔日ノ如キ干災ヲ免ルノミナラズ、稲田豊カニ稔リ黄色雲穰々トシテ庶民鼓腹擊壤ノ楽ヲ得テ聖代ノ徳沢ヲ謳歌スルニ至リヌ……」と、刻まれている。

おわりに、築造後の豊稔池に関連して一点注記すれば、明治三十四年に設立の井関池の管理組織である大野原

普通水利組合は豊稔池の築造を機に名称を豊稔池普通水利組合と改めた。豊稔池普通水利組合のかん漑区域は豊浜町の海岸部・姫浜地区までふくみ、そのかん漑面積は旧かん漑面積のおよそ一・八倍に広がった。